

肉用牛

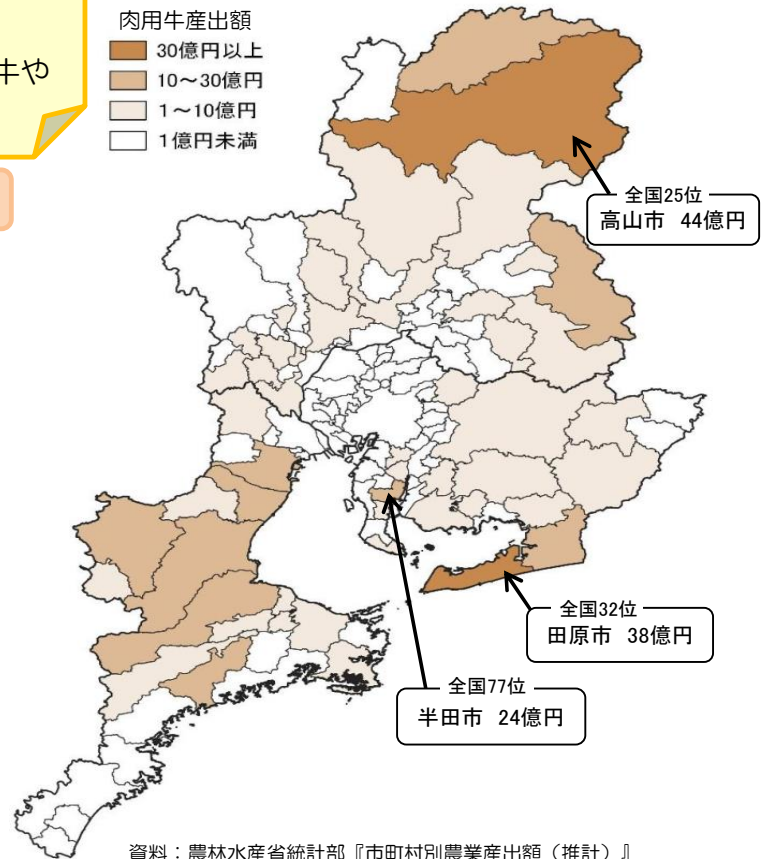
愛知県の肉用牛は乳用種が多く、飼養頭数は全国4位

肉用牛は、大きく分類すると、黒毛和牛などの肉用種と乳用種に分けられ、乳用種の中にはホルスタインの他に、肉用種と乳用種の間に生まれた交雑種がいます。

東海3県は、飛騨牛、松阪牛などの和牛や交雑種の知多牛などが有名です。

東海3県の肉用牛の市町村別農業産出額（令和5年）

肉用牛産出額
■ 30億円以上
■ 10～30億円
■ 1～10億円
■ 1億円未満



肉用牛の農業産出額の全国順位（令和5年）

順位	都道府県	肉用牛産出額（億円）	全国に占める割合（％）
1（2）	北海道	1,224	16
2（1）	鹿児島	1,208	16
3（3）	宮崎	765	10
4（4）	熊本	435	6
5（5）	宮城	253	3
6（8）	栃木	251	3
7（5）	長崎	250	3
8（6）	岩手	249	3
9（10）	茨城	196	3
10（13）	兵庫	186	2
：	：	：	：
18（18）	愛知	124	2
19（19）	岐阜	123	2
21（21）	三重	119	2

資料：農林水産省統計部『生産農業所得統計』

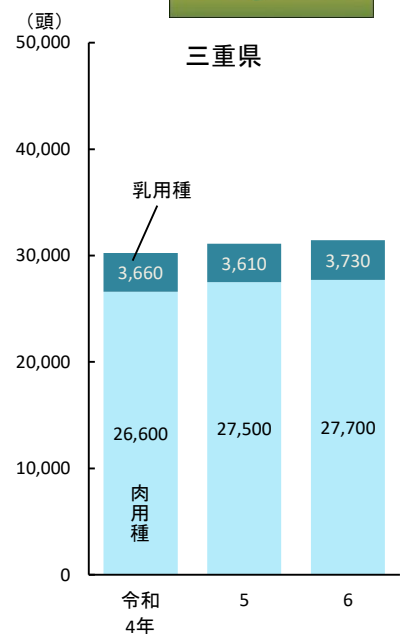
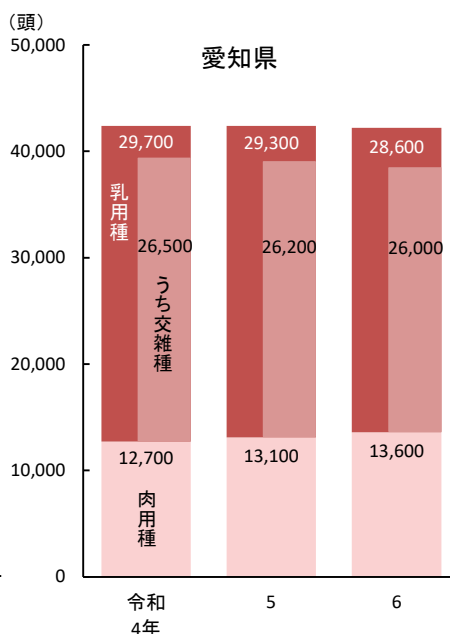
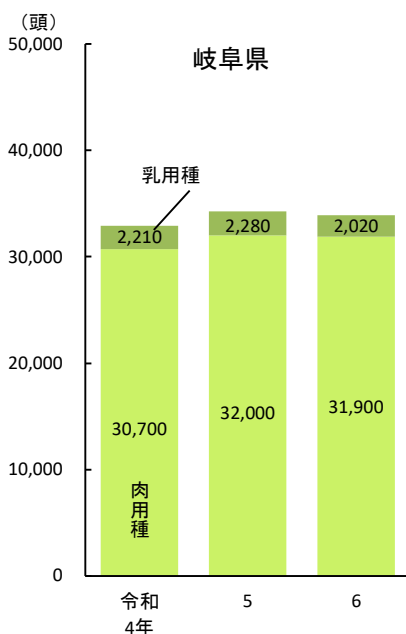
注：（ ）内は前年の順位です。

資料：農林水産省統計部『市町村別農業産出額（推計）』

注：令和5年の肉用牛の農業産出額を金額で色分けしたものです。

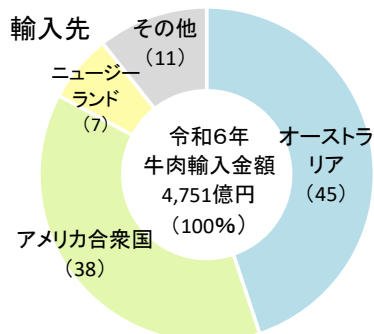
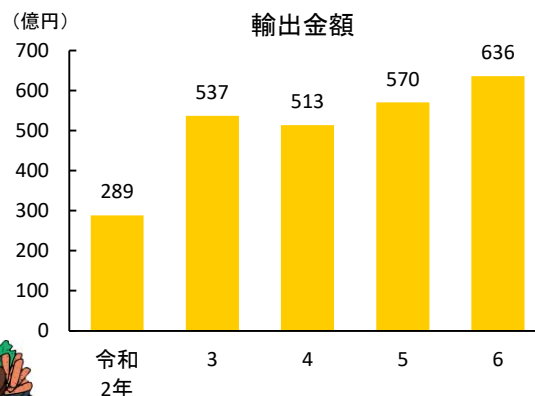
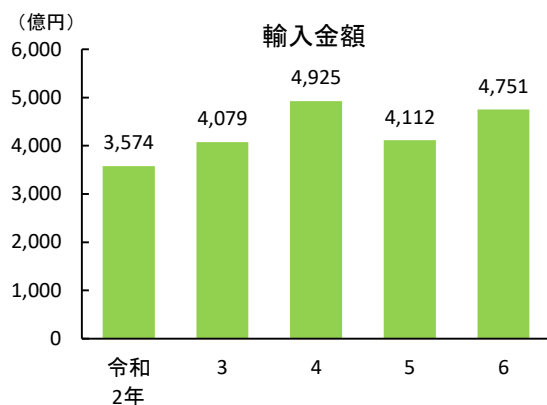
東海3県の肉用牛の飼養頭数の推移（令和4年～令和6年）

岐阜県と三重県の肉用牛は約9割が肉用種であるのに対し、愛知県の肉用牛は約7割が乳用種で、その中でも交雑種が9割を超えています。

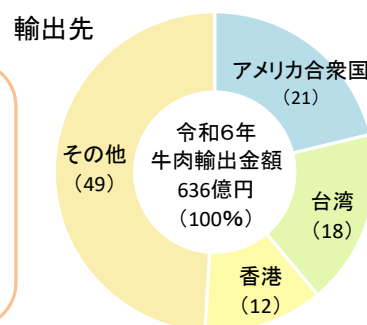


資料：農林水産省統計部『畜産統計』

牛肉の輸出入金額の推移と、主な輸出入先（令和2年～令和6年）



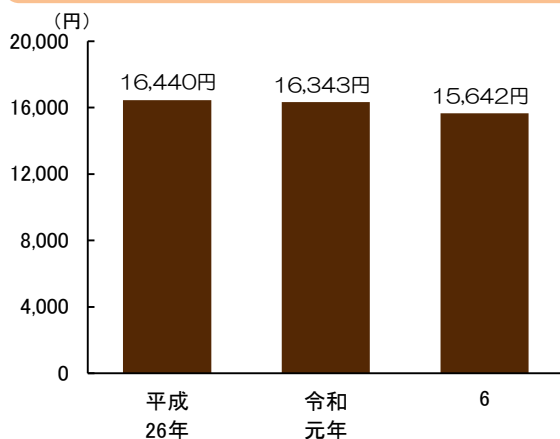
令和6年の輸出金額は636億円で、畜産品の中では肉用牛が最大の輸出額となっています。
黒毛和牛を中心に、主にアメリカ合衆国やアジア地域へ輸出されています。
近年では海外の和牛ブームの影響により、輸出金額は増加傾向にあります。



資料：農林水産省『農林水産物品目別実績（輸出・輸入）』
注：金額には加工品を含みません。

1世帯当たり牛肉の年間支出金額の推移

総務省の家計調査によると、令和6年の1年間に1世帯が支出する牛肉の全国平均の金額は15,642円です。近年は減少傾向にあります。



○農林水産省が公表している肉用牛に関する情報です。

[肉用牛の種類](#)



[肉用牛のページ](#)

[東海の畜産](#)



資料：総務省統計局『家計調査』

東海3県の主な銘柄（ブランド）牛

【松阪牛】（三重県）



松阪牛個体識別管理システムに登録済みの黒毛和種、未経産雌牛で、松阪牛生産区域での肥育期間が最長・最終である牛を「松阪牛」といいます。

また松阪牛の中でも、特に但馬地方をはじめとする兵庫県より生後12ヶ月までの子牛を導入し、900日以上肥育されたものを「特産松阪牛」と呼んでいます。

【飛騨牛】（岐阜県）

岐阜県内の登録農家で14ヶ月以上肥育され、かつ県内で最も長く飼育された黒毛和種で、肉質等級が3等級以上の牛を「飛騨牛」といいます。

【知多牛】（愛知県）

肥育期間が出荷月齢22ヶ月齢以上で、かつ知多半島において1年以上肥育された交雑種の肉牛を「知多牛」といいます。